

佐久市協働のまちづくり推進会議 会議記録（要旨）

日 時：令和5年8月28日（月）

13：25～14：30

場 所：佐久市役所 5階 501会議室

出席者：佐久市協働のまちづくり推進会議 委員6名（欠席4名）

事務局（広報広聴課職員・望月支所職員）3名

1 開会

2 会長あいさつ

3 会議事項

(1) 佐久市まちづくり活動支援金第2次募集事業審査について

ア 事務局より審査の流れ等について説明

審査は1事業ごとに書類審査し、審査員が所属する団体が応募した場合は、当該審査員は当該団体の審査をすることが出来ない。

審査員1人当たりの平均点数が高い事業から決定となる。

審査員1人当たりの平均点数が15点に満たない団体は、予算の範囲内であっても推薦は行わない。

重点テーマに該当する事業については、評価した点数の合計にそれぞれ5点を加算する。

イ 事務局から事業概要説明を行ない、その後、質疑応答

事務局：今回の2次募集では佐久っと支援金事業2件、駒の里過疎対策プロジェクト支援金事業1件の計3件の応募があったが、佐久っと支援金事業で応募があった2件について、「佐久高校生ラーメン甲子園」事業については、自己資金の確保が困難なこと、2次募集の審査時期と事業の準備期間のスケジュールが合わないこと、「あいろいろのツバメプロジェクト命の授業」事業については、イベントに対する寄付金が予想以上に集まり支援金申請の必要がなくなったとの理由で2件とも取り下げとなった。したがって、今回の審査事業は1件となる。

会長：取り下げとなった事業について、「佐久高校生ラーメン甲子園」事業は、残念ながら実施自体が困難になったとのことではよいか。

事務局：おっしゃる通り。自己資金の確保への不安がある中で、支援金の採択がされないうちに事業を進めることが難しく、採択後では準備が間に合わないとのことでの取り下げの旨の連絡をいただいた。

会長：もう1件の「あいろいろのツバメプロジェクト命の授業」は、先ほどとは逆で支援金を受けなくとも実施できる目処が付いたということではよいか。

事務局：こちらについては 8/12 すでにイベントが終了している。大盛況だったようで、寄付等が想定していたよりも多く集まり、取り下げという結果になったと思われる。

ウ 審査

①手仕事、文化芸術を多世代に向けて発信、体験する取り組み「猪口でつながるプロジェクト」、「民芸館学校」 (NPO 法人多津衛民芸館)

会長：私は多津衛民芸館を詳しく存じ上げないが、望月に実際に民芸館（施設）があるのか。

事務局：おっしゃる通り。「多津衛民芸館」という施設がある。

会長：そうすると、このプロジェクトの「民芸館学校」というのは、この施設で開催されるという理解でよいか。

事務局：おっしゃる通り。

会長：今回の事業のうち「猪口でつながるプロジェクト」は 7 月から開始となっている。現在の状況など分かればお聞きしたい。

事務局：予定では 7 月から開始予定だったが、現在デザインを業者に発注している段階で、この支援金が採択されたところで本格的に動き始めると団体からうかがっている。

委員：多津衛さんが亡くなられたのはいつか。

事務局：団体からの聞き取りはしていないが、インターネット上の情報では 2001 年に亡くなっている。

【審査→審査票の回収、集計】

(2) 意見交換

ア 事務局から

佐久市協働のまちづくり推進会議は令和 3 年 10 月から 2 年の任期の為、来月末で任期満了する。委員の皆さまの中には任期の途中で前任者から引き継がれたり、前期の令和元年から 2 年以上携わっていただいた方もいる。ご協力ありがとうございました。次期も再任していただく方もいらっしゃるが、2 年の区切りとして、会議に参加した感想や支援金に対する意見、自身の活動やお知らせなどを自由にご発言いただきたい。

イ 委員からの意見

委員：会議に参加してみると、支援金の審査が主になってしまっていて、協働について市民にどう周知していくかという話し合いや意見交換の時間が少なかったと感じた。

また、支援金の優良表彰事業審査で、最優秀賞は同一事業について 1 回とするという規定も疑問に思っている。最優秀賞を決めることで協働のまちづくりを進めていくことや、色々な方たちが協働で何かをするという意欲を出せるという目的は良く分かるが、実際審査をして点数が高かったならば 2 度でも 3 度でも最優秀賞としていいと個人的には思う。最優秀賞を決めることよりも、継続して何年も続いた事業がその後、形を変えたとしても、その地域や協働のまちづくりにどううまく活かされているかを検証することが大切だと思う。

自身の活動に関して、「あーすの会」は9/3の国際交流フェスや社協主催のふれあい広場でバザーなどを行い、ユニセフや災害等の被害があった地域へ寄付をする活動や、教育に恵まれない外国の子ども達の支援を行っている。そもそも「あーす」は地球（earth）と明日（あす）を意味し、世界と未来についての活動をしている。また、佐久市の姉妹都市であるエストニアの中学生が来た時に、外国の方に好評の「ゆかたで茶道」でお手伝いをさせてもらっている。

委員：私が所属する「佐久青年会議所」は40歳までの若手が、地域を盛り上げるようなイベントや青少年を育成する活動をしており、この支援金をよく使わせていただいている。素晴らしい地域の活動を推進できる取り組みだと感じているが、一方で利用促進がなされていないと感じている。今回も応募は少ないし、予算消化のような形になっている所が大きな課題なのではないか。公的なお金なので厳正な審査は必要だと思うが、利用促進のためには申請の簡易化や少額の事業に対する簡易的な申請などがあればいいのではないかと思う。そういった形で色々工夫をしながら市民活動が推進されるような助成金を推進できればいいと思う。

委員：他の委員さんからも意見があったが、この会議は支援金の審査が中心になっていて、話し合った内容が外に共有されていないように感じる。さくさぼが頑張って協働のまちづくりを進めてくれていると思うが、それが市民に共有されていない。もっと広がりを見せるような活動もこの会議の中でできたらよいと思う。

支援金に関しては、もっと広く知ってもらい気軽に使えるものになったらよいと思う。例えば、学校などでもこの支援金を使えるケースはあると思うが、知られていない。周知不足だと思う。学校PTAなども資金不足だったりするので、そういう方たちにもっと知ってもらえる活動ができたらよいと思う。

自身の団体も今年支援金を使って活動し、講演会などをやっている。佐久市は後援が取りにくいなど、応援をしてもらえないと感じることがある。もう少し協力的になってくれたら活動がしやすい。佐久市のLINEで情報を発信してもらえたりできればとても助かる。支援金を使っている事業は、LINEなどで宣伝してもらえとなれば団体としてはとてもありがたいと思う。

委員：そもそもこの会議の存在そのものが知られていないのではないかと思う。どういったシステムで、どういった考えでこの会議があるのかが、広く市民に知られていないのではないか。

支援金については、もっと継続して使えるようにしたらよいと思う。

また、この会議の委員については、応募者が少ないらしいが、もう少し応募が増えるよう策を考えた方がよいのではないかと思う。

委員：私が所属する佐久市の区長会は240人が所属していて、この会議とは逆にとても間口の広い活動をしている。先の委員さんの話にもあったが、私もこの会議があまり知られていないと感じている。私自身も区でこの支援金を使おうと思った事があったが、書類の準備が大変で使わなかった。やはり、支援金額に見合った申請方法は検討してもよいと思う。

コロナの影響がすごくあって、ここ3年は活動が難しかったと思う。これからどう変わっていくか、これからがチャンスだと思っている。私自身は区長として祇園祭などを経験し、人を動かすことの難しさを知った。気合があっても目的や全体像が見えないと手を上げにくい事もあると思う。

会長：今回は残念ながら欠席の委員さんもいるが、出席された方から私も共感する非常に貴重な意見を聞くことができた。この会議が支援金の審査がメインで協働についての議論がなかなかできていないことや支援金を受けた団体のその後の検証なども非常に大事なことだと思う。

また、支援金の利用の促進について、そもそも「協働」とはどういうことで、それを行うためのこの支援金の制度が周知できていない、もっと知ってもらうためにはどうしたらよいか。委員への応募も少ないが、どう周知していくか。まず、この周知や利用促進に関して皆さんのアイデアをお聞かせ願いたい。

ちなみに、「協働」については市の出前講座があるが、行政側として市民の反応や周知についてはどう受け止めているか。

事務局：出前講座で「協働のまちづくり」についてのメニューが1つあるが利用が少ない。昨年は2件実施したが、近年まれにみる多さだった。出前講座の申し込みを待つのではなく、こちらから色々な場へ出向いて話をさせて頂く機会を積極的に作っていくことも大事だと、委員の皆さんの話をきいて感じた。周知については、せっかく公式LINEもあり、昔に比べれば手軽に情報に触れることができる時代なので、市民活動団体のためのそういった媒体の利用のハードルが低くなっていくよう、当課でも考えていきたい。

会長：「支援金を利用した団体はもれなくLINEを利用できる」などの基準のようなものはあるか。

事務局：支援金を利用するメリットとして、そういうことを思い切ってやっていないと利用も増えていかないと思う。LINEも市の広報紙と同じように、市が主催なのか、市の後援がついているかなど配信に関して厳しい基準がある。支援金については厳しい審査を通して利用しているというところで大きな後押しになると思う。支援金全体的な見直しと共に使っていただける制度作りを考えていきたい。

会長：他にも、PTAなどお金がなくて活動が難しい団体にこそこういう支援金があることを周知すべきとのご意見が委員さんからあったが、これについてはどう進めていったらよいか。私は、市の方から積極的に情報を出していかないとなかなか浸透していかないと思うが、何か方法はあるか。

委員：学校へ広報するよりも、PTAであれば5校合同PTAのような各校のPTAの会長・副会長が集まるような場に出向いて説明するのがよいと思う。教育委員会ともこういう制度のことを共有できたらいいと思う。

会長：また、他に出た意見では、さくさぼとこの会議の関係やさくさぼがやっていることが見えないというものがあつた。この辺りは以前から課題になっていて、過去には

この会議にさくさぼのスタッフにも参加して話をしてもらったことがあったが、こういったお互いの情報共有は必要なんじゃないかと思う。

その他にも、委員の応募を増やすという意見があったが、このことについては、どうしたらよいか。

委員：公募のタイミングをもう少し増やしてはどうか。そもそも募集人数は何名か。

事務局：全体の定数は12名、そのうち公募は4名としている。佐久市としては公募委員の人数は定数の2割以上としているため、この会議は高めに設定されている。現状なかなか集まらないため、もう少し違った周知の仕方を検討しなければと思っている。

委員：私は広報を見て応募した。広報だけだと見逃してしまったり、そもそも興味がなければ見ていない人もいると思う。もう少しインパクトの強い記事にするなど工夫してはどうか。

会長：そもそも「協働のまちづくり推進会議」自体が何なのか分からなければ、広報に載っていても応募もしないと思う。

事務局：「環境審議会」などイメージしやすいものは関心のある方も多く、応募も多くあるが、この会議は見た目では分かりづらい部分があると思う。

委員：公募以外の委員はどのように決まるのか。

事務局：この会議の場合は、公募委員以外に学識経験者や民間団体の代表者などから選んでいる。

委員：市が選んで決めているのか。

事務局：おっしゃる通り。団体は区長会や青年会議所のような協働のまちづくりの担い手として期待されている団体などからどなたか来ていただいている。

委員：対象となる団体はたくさんあると思う。私も人に勧めたことがあるが、説明会には来たがハードルが高すぎるとの理由であきらめてしまった。やり方はいくらでもあると思う。予算や見積書はいいかげんなものもあると思う。それを見破るのが我々の役目かもしれない。水増ししていると感じるものもあるが、考え方が良ければその辺りは見逃そうと私は思っている。

会長：公募の媒体は、広報紙とHPのみか。

事務局：今現在利用しているのは主にその2つ。

会長：LINEなどでは配信できないか。

事務局：LINEでも配信可能。多くの課で利用している。

会長：使えるのであれば、やってみてもよいのでは。

委員：LINE利用者は若い世代が多い。若い人たちは昼間の会議に参加できないと思う。

会長：他の自治体では若い方が参加できるよう、会議の時間帯を夕方や夜、休日に設定しているところもある。職員の負担は大きくなるが、本当に参加してもらいたいのであればそういうことも検討していかなければいけないと思う。

せっかくの機会なのでもし他にも意見があればご発言いただきたい。

委員：支援金の利用について、さくさぼには佐久市内のあらゆる市民活動団体が登録していると思うが、登録団体はこの支援金の使い方の説明を受けているのか。

事務局：全団体へ説明はできていないが、さくさぽ自体が支援金の相談窓口として開設しているため、資金に関しての相談があった場合には、選択肢の一つとして随時ご案内はしている。

委員：それでは団体側から、資金で困っていると相談に行かないと支援金の案内がされないことになる。さくさぽでは団体向けの講座などを企画しているので、そういう場で説明する機会をつくれば、市民へも少しは周知されると思う。

事務局：ちょうど昨日、さくさぽで団体向けの資金調達講座があり、この講座で3次募集の告知を行った。先ほどおっしゃられた通り、選択肢の一つとして案内する以外にも支援金の内容について説明する機会を持つことは利用促進という点で有効だと思う。

委員：皆さんの意見を聞いて「協働のまちづくり」がイメージとして湧かない、その言葉の意味を市民と共有ができていないところが問題なのではないかと思う。その距離を縮めないといけないのでは。そこをどう縮めるかはとても難しいと思うが、私が会議に参加し始めたころとそのあたりがあまり変わっていないように感じる。簡単に言うと、税金をたくさん使うことができないから皆さんも一緒にやってもえませんかということだが、それがそう聞こえなくなっている。ハードルが上がってしまっていると思う。皆さんがやってくれることがあればお願いします、それが協働だと思う。その概念をどう作っていくかというところを解決しないとうまく進まないと思う。

会長：本当は在任中にこういう意見交換する場がもっとつくれたらよかったと思う。先ほどから何度も出ているが、支援金の審査が会議の中心になってしまっていたので、会議の在り方についても今後、事務局の方と検討していきたいと思う。

今日は有意義な意見が聞けて、私もとても勉強になった。今の意見を今後の会議に活かしていきたい。また意見があれば、出していただきたいと思う。

【令和5年度佐久市まちづくり活動支援金事業第2次募集分 審査結果発表】

集計結果について事務局より発表

申請のあった事業については、審査員1人当たりの平均点数が基準点数以上となった。

推進会議より当該事業について、市へ推薦する。

現時点で支援金の予算額に余裕があるため、3次募集を9月中に実施する予定。

4 その他

事務局：この会議で任期期間中の会議は終了となる。ありがとうございました。

会長：先ほどの意見交換では様々なご意見をいただけてよかった。私も再任予定の為、事務局と今日出た意見の中で、どんなことができるかを協議し、今後の進め方を検討していきたい。再任予定の皆さんはぜひ今後ともよろしくお願いします。

・次回の推進会議について

事務局：再任予定の方は10月に委嘱式を予定している。日程が決まり次第ご連絡させ

ていただく。

5 閉会